

フォーシーズン

追加型投信／内外／資産複合

交付運用報告書

第91期(決算日2018年9月18日)

第92期(決算日2018年10月15日)

第93期(決算日2018年11月15日)

第94期(決算日2018年12月17日)

第95期(決算日2019年1月15日)

第96期(決算日2019年2月15日)

作成対象期間(2018年8月16日～2019年2月15日)

第96期末(2019年2月15日)	
基準価額	6,160円
純資産総額	2,870百万円
第91期～第96期	
騰落率	△ 0.5%
分配金(税込み)合計	120円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「フォーシーズン」は、2019年2月15日に第96期の決算を行ないました。

当ファンドは、複数の投資信託証券への投資を通じて、実質的に、主として内外の債券や通貨に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

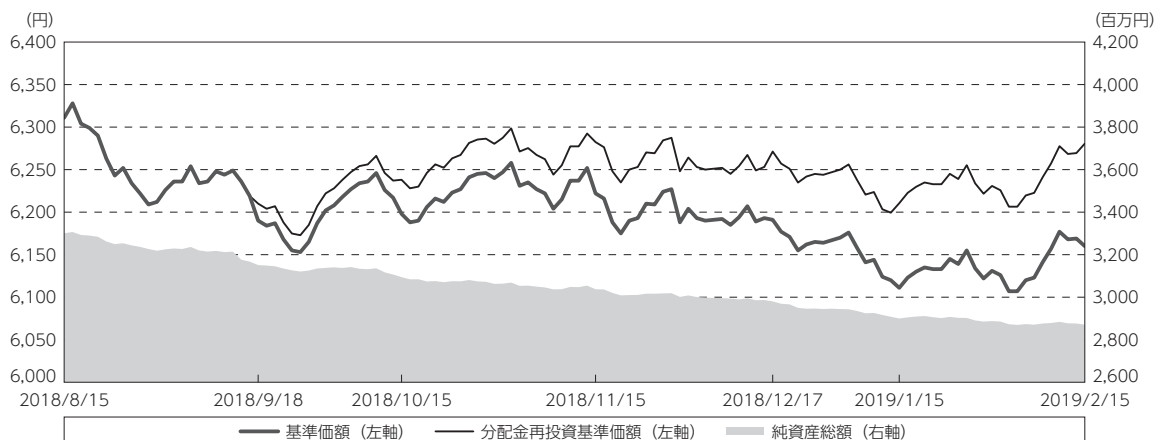
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2018年8月16日～2019年2月15日)



第91期首：6,311円

第96期末：6,160円 (既払分配金(税込み):120円)

騰落率：△ 0.5% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2018年8月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、複数の投資信託証券への投資を通じて、実質的に、主として内外の債券や通貨に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。日本の短期国債などを中心に投資する安全性を重視した運用に加え、先進国の国債先物・通貨を主要投資対象として収益の獲得をめざす運用を行ない、ポートフォリオ全体で安定した収益の獲得をめざしています。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・ 中国経済の減速懸念、欧州経済の減速、英国の欧州連合(EU)からの離脱を巡る警戒感などを背景に、世界経済の先行き不透明感が広がったこと。
- ・ 投資対象先ファンドである「GDA Aストラテジーファンド クラスC」において、ユーロを売り建てたこと、オーストラリアドルを売り建てたこと、ドイツ国債を買い建てたこと。

<値下がり要因>

- ・米国の堅調な内容の経済指標の発表を受けて米国長期金利が上昇したこと（期間の初め～2018年10月上旬）。
- ・投資対象先ファンドである「GDA Aストラテジーファンド クラスC」において、カナダ国債を売り建てたこと（2018年11月～12月）、カナダ国債を買い建てたこと（2018年9月下旬～10月上旬、2019年1月上旬）、米国国債を売り建てたこと。

1万口当たりの費用明細

（2018年8月16日～2019年2月15日）

項 目	第91期～第96期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	37	0.599	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(6)	(0.093)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(30)	(0.490)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	(1)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	3	0.044	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	(3)	(0.041)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.001)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	40	0.643	
作成期間の平均基準価額は、6,190円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

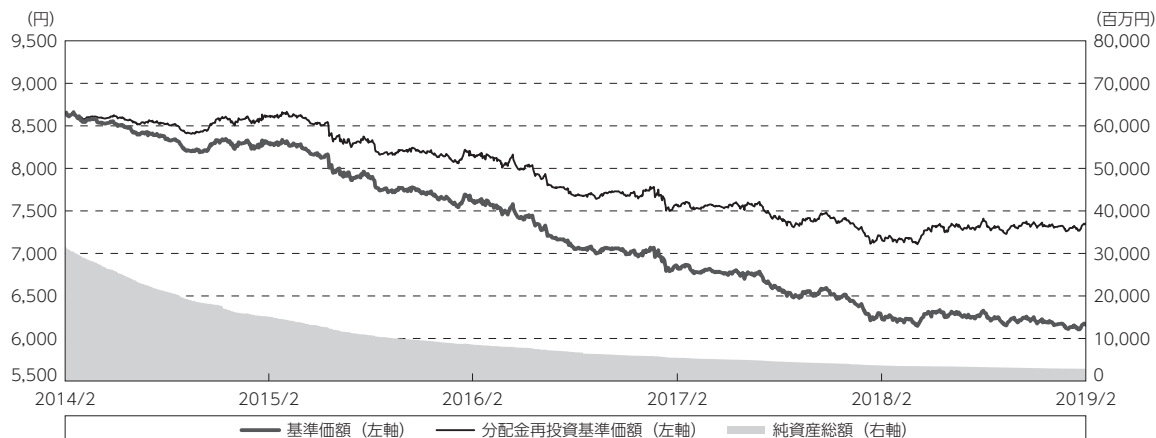
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2014年2月17日～2019年2月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2014年2月17日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2014年2月17日 決算日	2015年2月16日 決算日	2016年2月15日 決算日	2017年2月15日 決算日	2018年2月15日 決算日	2019年2月15日 決算日
基準価額 (円)	8,648	8,289	7,616	6,828	6,246	6,160
期間分配金合計(税込み) (円)	—	320	240	240	240	240
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 0.4	△ 5.3	△ 7.3	△ 5.1	2.5
純資産総額 (百万円)	31,534	15,122	8,578	5,453	3,670	2,870

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

(2018年8月16日～2019年2月15日)

(海外債券市況)

当期間は市場ボラティリティ（変動性）の高止まりが続きました。世界経済は回復基調が見られたものの、経済成長とリスク資産のリターンはともに金融政策の引き締め、地政学的リスク、中国の景気減速が同時進行するという逆風に晒されました。ボラティリティが高い状況にもかかわらず、米国連邦準備制度理事会（FRB）は利上げを継続し、カナダ銀行やスウェーデン中央銀行も追随しました。エスカレートする米中間の貿易戦争と同様に、英国のEU離脱の条件を巡る交渉も激しさを増しました。中国経済は、公式の統計が依然プラス成長を示しているものの、貿易制裁や地方の過剰投資の影響によって打撃を受けており、稼働を続けるためには政府による多大な景気刺激策が必要となっています。これらの懸念材料を受けて、先進国の金融市場では株式のパフォーマンスがまちまちとなる一方、長期債券利回りが低下（債券価格は上昇）し、クレジット市場およびコモディティのリターンは低迷しました。市場では2018年年末にリスクオフの動きが加速したものの、期間末にかけては回復が見られました。

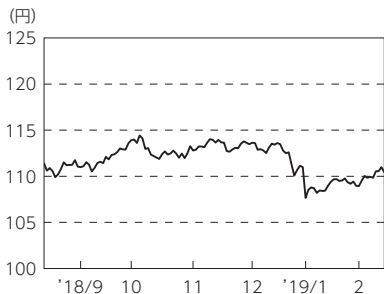
(国内債券市況)

国内債券市場では、期間の初めから2018年10月上旬にかけては、米国の堅調な内容の経済指標の発表を受けて米国長期金利が上昇したことや、日銀が国債買入れを減額し国内債券市場の需給悪化が懸念されたことなどから、国債利回りは総じて上昇（債券価格は下落）しました。10月中旬から期間末にかけては、日銀総裁の発言を背景とする金融緩和の長期化観測や、中国経済の減速懸念、欧州経済の減速や英国のEUからの離脱を巡る警戒感などを背景に世界経済の先行き不透明感が広がったことなどから、国債利回りは総じて低下しました。

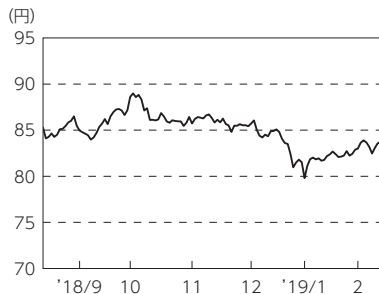
(為替市況)

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。

円／アメリカドルの推移



円／カナダドルの推移



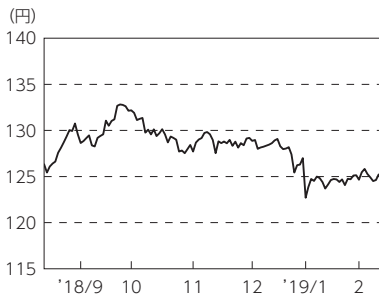
円／オーストラリアドルの推移



円／ニュージーランドドルの推移



円／ユーロの推移



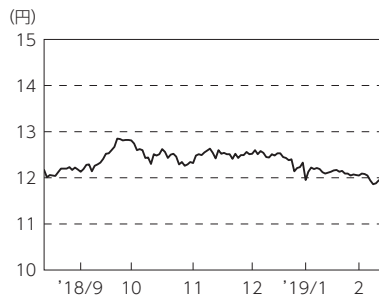
円／イギリスポンドの推移



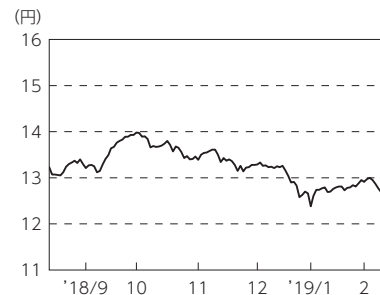
円／スイスフランの推移



円／スウェーデンクローナの推移



円／ノルウェークローネの推移



当ファンドのポートフォリオ

(2018年8月16日～2019年2月15日)

(当ファンド)

投資対象先である、「G D A Aストラテジーファンド クラスC」受益証券および「日本短期債券マスターファンド（適格機関投資家向け）」受益証券への投資を通じて、主に国内外の債券や通貨に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないました。各受益証券の組入比率は、それぞれ信託財産総額の概ね50%をめどとしました。

(G D A Aストラテジーファンド クラスC)

当期間の当ファンドは、モデルがアメリカドル有利な方向への金利差拡大、また相対的により良好な米国経済指標の上振れを活かすポジションの構築を示したことから、ポートフォリオの為替部分のリターンがプラスとなりました。一方で、ポートフォリオの債券部分はほぼ横ばいのリターンとなりました。債券部分のポジション構築のドライバーは、短期金利がより低い市場が有利となるファンダメンタル・ファクターと、他の債券市場の動きに対する債券の平均回帰を狙うポジションとの間でシフトしました。当期間を通じて、当ファンドの資産配分は定量モデルが推奨するポジションに厳密に沿って行ない、また予想リスクの水準は長期目標近辺に維持しました。

(日本短期債券マスターファンド（適格機関投資家向け）)

日米を中心とした金融政策動向や経済指標が示唆する景気動向などを睨みながら、デュレーション（金利感応度）を調整しました。長短金利操作付き量的・質的金融緩和の下、金利はマイナス圏で小動きの市場推移を想定し、デュレーションをベンチマーク対比中立程度で調整しました。クレジットについては慎重な投資スタンスを継続し、対国債スプレッド（利回り格差）に妙味のある事業債を中心に銘柄精査を行ない、投資する方針を継続しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2018年8月16日～2019年2月15日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。

分配金

(2018年8月16日～2019年2月15日)

分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第91期	第92期	第93期	第94期	第95期	第96期
	2018年8月16日～ 2018年9月18日	2018年9月19日～ 2018年10月15日	2018年10月16日～ 2018年11月15日	2018年11月16日～ 2018年12月17日	2018年12月18日～ 2019年1月15日	2019年1月16日～ 2019年2月15日
当期分配金 (対基準価額比率)	20 0.322%	20 0.322%	20 0.320%	20 0.322%	20 0.326%	20 0.324%
当期の収益	—	5	5	—	—	5
当期の収益以外	20	14	14	20	20	14
翌期繰越分配対象額	1,684	1,669	1,654	1,634	1,614	1,600

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、投資対象先である、「GDA Aストラテジーファンド クラスC」受益証券および「日本短期債券マスターファンド(適格機関投資家向け)」受益証券への投資を通じて、主に国内外の債券や通貨に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。各受益証券の組入比率は、それぞれ信託財産総額の概ね50%をめどとします。

(GDA Aストラテジーファンド クラスC)

当ファンドは、原則として、投資環境の変化に応じて計量モデルの改良を検討することにより、計量モデルの示唆に基づく規律ある投資プロセスを維持する方針ですが、想定を上回る急速な環境の変化が生じた場合には、投資経験を生かした定性的な判断を加えることにより、ポートフォリオのリスクを調整することも検討します。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

(日本短期債券マスターファンド(適格機関投資家向け))

デュレーション戦略やイールドカーブ戦略を機動的に変更することで、信託財産の安定した成長をめざします。国内では物価目標達成に向けた金融緩和政策が継続し、短・中期金利は安定的な推移が見込まれます。日銀は長期金利の変動幅拡大を容認したため、この影響を注視しつつ短期ゾーンの国債を中心とした運用を継続する方針です。

事業債の銘柄選択にあたっては、銘柄精査を行ないスプレッドに妙味のある銘柄を中心に購入を検討します。今後も慎重な投資スタンスを維持しつつ、スプレッドの積み上げによる収益の確保をめざします。ただし、クレジット戦略については、信託財産の規模によっては前述の運用ができない場合があります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

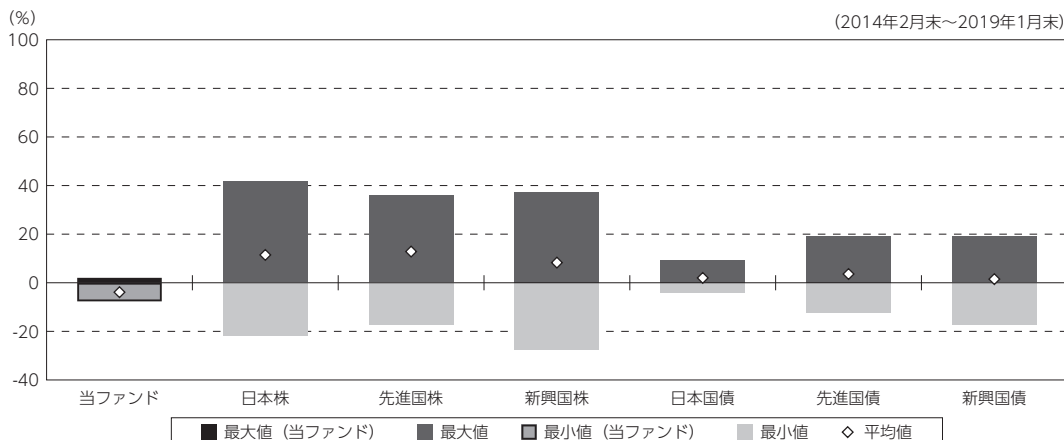
2018年8月16日から2019年2月15日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2011年2月23日から2021年2月15日までです。
運用方針	複数の投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）への投資を通じて、実質的に、主として内外の債券や通貨に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「GDA Aストラテジーファンド クラスC」 受益証券 「日本短期債券マスターファンド（適格機関投資家向け）」 受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	複数の投資信託証券への投資を通じて、実質的に、主として内外の債券や通貨に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざします。日本の短期国債などを中心に投資する安全性を重視した運用に加え、先進国の国債先物・通貨を主要投資対象として収益の獲得をめざす運用を行ない、ポートフォリオ全体で安定した収益の獲得をめざします。市場が著しく不安定な場合などには、損失回避を優先するなど、投資資産の組入比率を柔軟に変更します。
分配方針	毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	2.0	41.9	36.2	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△ 7.7	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	△ 3.9	11.5	12.8	8.3	2.0	3.6	1.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年2月から2019年1月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLC に帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2019年2月15日現在)

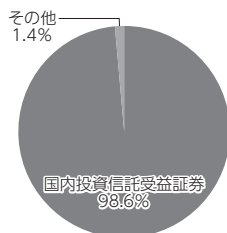
○組入上位ファンド

銘柄名	第96期末
	%
GDA Aストラテジーファンド クラスC	49.5
日本短期債券マスターファンド (適格機関投資家向け)	49.0
組入銘柄数	2銘柄

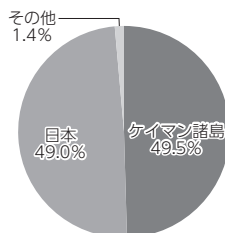
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。

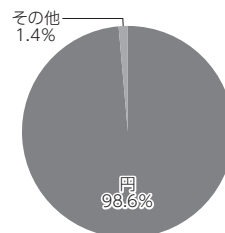
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍 (邦貨建) の受益証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第91期末	第92期末	第93期末	第94期末	第95期末	第96期末
	2018年9月18日	2018年10月15日	2018年11月15日	2018年12月17日	2019年1月15日	2019年2月15日
純資産総額	3,151,127,527円	3,094,329,795円	3,037,385,579円	2,980,278,547円	2,899,920,240円	2,870,846,173円
受益権総口数	5,090,432,437口	4,992,756,809口	4,881,937,442口	4,813,725,576口	4,745,026,376口	4,660,590,702口
1万口当たり基準価額	6,190円	6,198円	6,222円	6,191円	6,111円	6,160円

(注) 当作成期間 (第91期～第96期) 中における追加設定元本額は55,086,861円、同解約元本額は624,387,262円です。

組入上位ファンドの概要

G D A A ストラテジーファンド クラスC

【基準価額の推移】

(2017年1月1日～2017年12月31日)



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2017年1月1日～2017年12月31日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2017年12月31日現在)

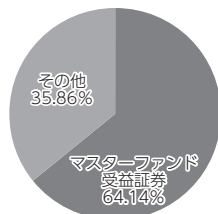
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国(地域)	比率
1	日興AM-ケイマン・ファンド・セグリゲイテッド・ポートフォリオ・カンパニー	マスターファンド受益証券	アメリカドル	ケイマン諸島	64.1
2	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			1銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

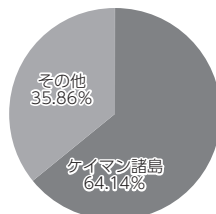
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

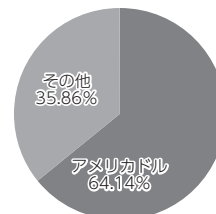
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



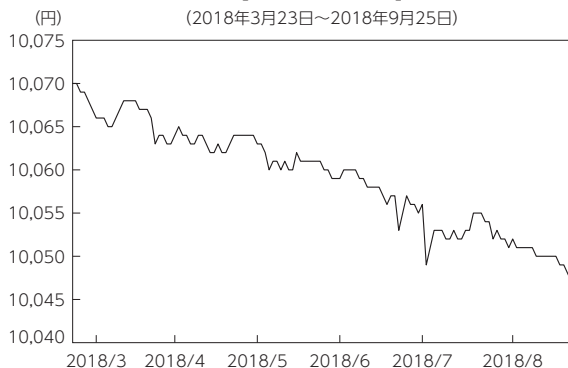
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

日本短期債券マスターファンド（適格機関投資家向け）

【基準価額の推移】

(2018年3月23日～2018年9月25日)



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2018年3月23日～2018年9月25日)

項目	第139期～第144期	
	金額	比率
	円	%
(a) 信託報酬	8	0.083
（投信会社）	(7)	(0.066)
（販売会社）	(-)	(-)
（受託会社）	(2)	(0.017)
(b) その他費用	1	0.014
（監査費用）	(0)	(0.002)
（印刷費用）	(1)	(0.012)
（その他）	(0)	(0.000)
合計	9	0.097

作成期間の平均基準価額は、10,060円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位ファンド】

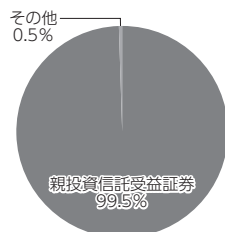
(2018年9月25日現在)

銘柄名	第144期末
日本短期債券マザーファンド	99.5%
組入銘柄数	1銘柄

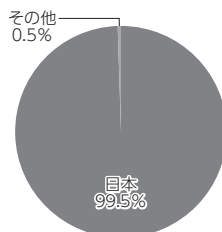
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

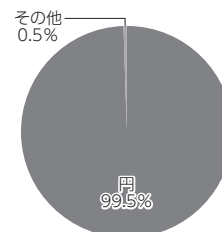
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

＜ご参考＞ 日本短期債券マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2016年10月29日～2017年10月30日)
 該当事項はございません。

【組入上位10銘柄】

(2017年10月30日現在)

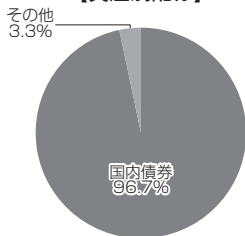
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率 %
1	第377回利付国債(2年)	国債証券	円	日本	22.3
2	第121回利付国債(5年)	国債証券	円	日本	17.3
3	第117回利付国債(5年)	国債証券	円	日本	9.9
4	第126回利付国債(5年)	国債証券	円	日本	7.4
5	第125回利付国債(5年)	国債証券	円	日本	7.4
6	第123回利付国債(5年)	国債証券	円	日本	7.4
7	第127回利付国債(5年)	国債証券	円	日本	5.0
8	第6回成田国際空港株式会社債(一般担保付)	普通社債券	円	日本	2.5
9	第72回共同発行市場公募地方債	地方債証券	円	日本	2.5
10	第4回中日本高速道路株式会社社債(一般担保付、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構重畳的債務引受条項付)	特殊債券	円	日本	2.5
組入銘柄数				15銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

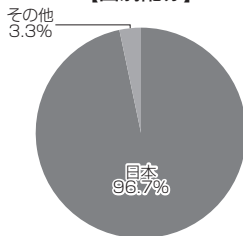
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

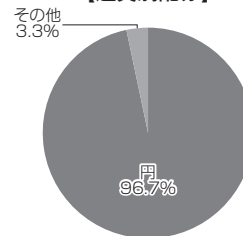
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。